

今月号のお知らせ内容

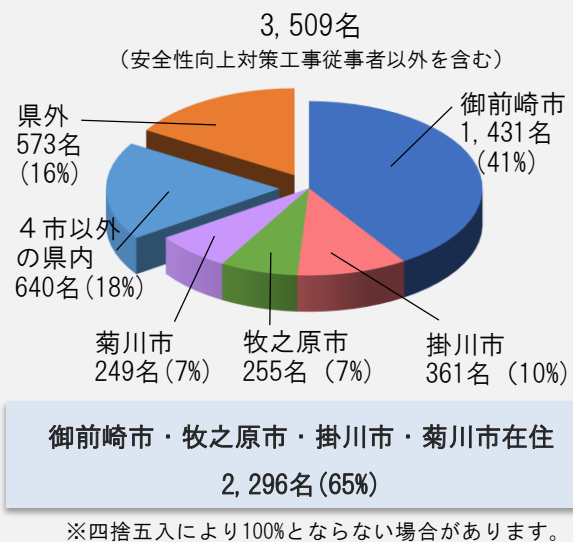
①工事の進捗状況等

②原子力安全向上にかかる相互技術協力の実施状況の確認

③津波監視システム

④審査会合

浜岡原子力発電所従事者数（1月1日現在）

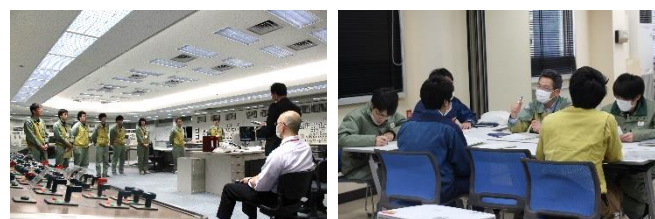


②原子力安全向上にかかる相互技術協力の実施状況の確認

- 東京電力ホールディングスと北陸電力および当社は、地理的近接性や炉型の同一性を活かし、原子力安全にかかる相互技術協力をおこなっています。
- 1月18日には、運転員のさらなる力量向上を目的に、浜岡原子力発電所でシミュレータを用いた相互訓練をおこない、当社から運転員はじめ関係者40名が参加しました。



各社のシミュレータ訓練を相互に確認

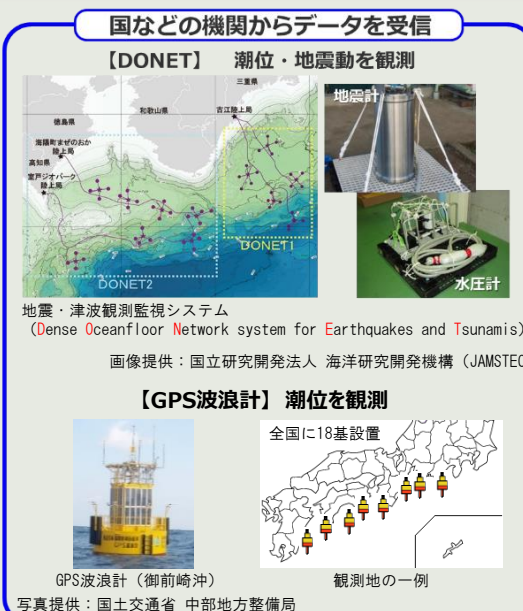


シミュレータ訓練の講評

意見交換の様子

③津波監視システム

- 海洋観測技術を活用し、津波をできるだけ早期に検知し、襲来する津波への対処を的確に実施することができるよう、津波監視システムの構築に取り組んでいます。



これらを組み合わせることで
津波の到達時刻、
高さを予測

①工事の進捗状況等

竜巻対策

- 発電所では、さまざまな自然現象による対策を実施しています。
- そのひとつとして、竜巻が発生しても安全上重要な機能を損なわないようにおこなっている工事について紹介します。

【工事の一例】



（対策前）

ポンプなどを壁で覆う



（対策後）

海水取水ポンプやその周辺の配管に
対しての飛来物の防護対策

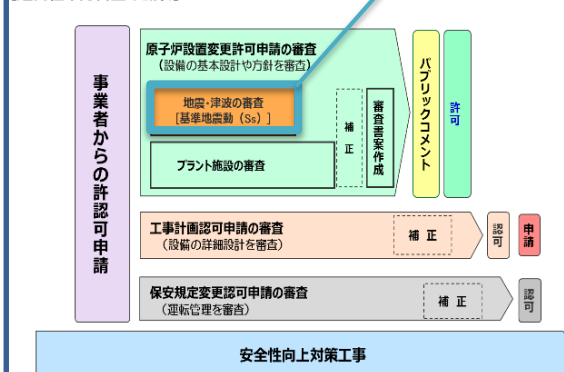
④審査会合

- 原子力規制委員会による新規制基準適合性確認審査を受けています。
- 1月18日には内陸地殻内地震の地震動評価について概ね了承をいただきました。
今後、プレート間地震と内陸地殻内地震との連動評価を実施していきます。

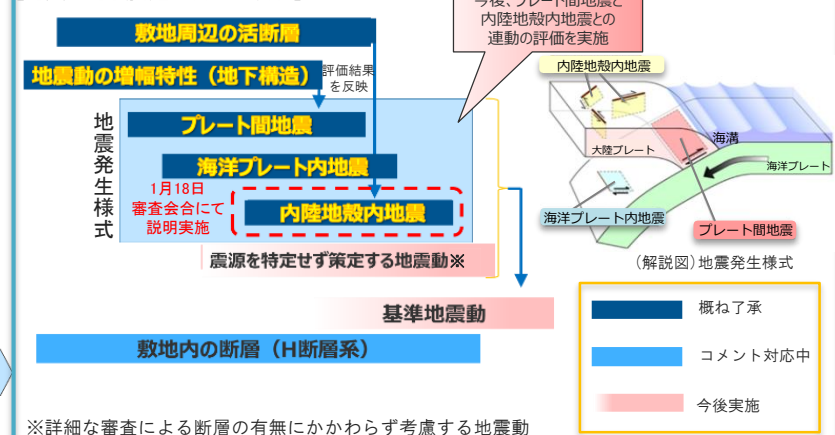
＜4号機の進捗状況＞（2019年1月31日現在）

審査事項	地震・津波等に関する事項	プラントに関する事項
審査会合の回数	共通：2回 32回	58回

〔適合性確認審査の流れ〕



〔地質・地震関連の審査の流れ〕



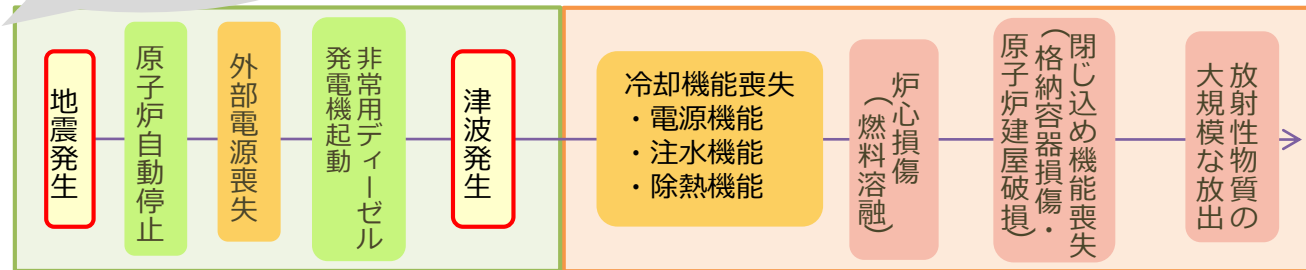
- 今後も、原子力規制委員会による審査に真摯に対応し、新規制基準に適合していることを早期にご確認いただけるよう努力してまいります。

発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。

また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、
海拔22mの防波壁で敷地内への
浸水を防ぎます。

万が一、敷地内に浸水した場合でも強化
扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災
が発電所施設に燃え移らない
ように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。

また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設

電源機能強化



ガスタービン発電機
高台40m地点から
電気を供給

注水機能強化



緊急時淡水貯槽
高台30m地点から
原子炉を冷やす水
を供給(7日間分)

除熱機能強化



緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプ
が故障した場合に備え
同様な設備を設置

可搬



交流電源車
恒設の交流電源設備
が故障した場合に備
え配備



可搬型注水ポンプ車



可搬型取水ポンプ車

恒設の注水設備が故
障した場合に備え配
備

重大事故の発生に備える

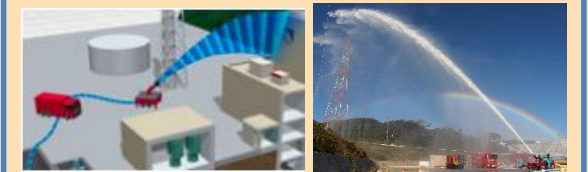
フィルタバント設備

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放
出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通
し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑える
ことで避難の長期化を防止します。



放水砲設備

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から
水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地
上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開
始に向けて増強しています。

24時間
365日体制

緊急時に特化した
幅広い対応力



役割
・戦略検討
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応
(現在17名)

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順
の追加や免許等の資格の取得を
おこなっています。



<取得免許例>
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に
対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手
順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を
2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必
要な力量の向上に努めています。(年間約630回：2017年度実績)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリング
ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。
また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼
いただける発電所を目指してまいります。